



オーバーランでどうにか左折可能に(おみがわこども園脇)

学校教育におけるICT教育機器の充実を

**Q** 学校教育へのコンピューターやインターネットなどのICT(情報通信技術)の導入による活用効果をどのように捉えているか。

**A** 市内小・中学校でも電子黒板等の大型提示装置やパソコン等のハードウェア、デジタル教科書や映像教材等のソフトウェアを活用した授業を展開しています。学校からは、イメージの共有化を図ったり、理解を深めたりすることに効果的との報告があります。タブレット端末の活用では、少人数グループでの学習活動が活発化でき、深い学びの実現も可能となります。学校現場からは、おおむね良好な成果が得られているとの報告がありました。

**Q** 子どもたちの学習意欲を高めるためにも、さらなるICT教育機器の整備を進めるべきと考えが見解は。

**A** 平成27年度から5カ年計画で教育用パソコンの入れ替えをしています。今後、教育用パソコンのリース更新に合わせ、各学校15台程度のタブレット端末を全学校



たしろ かずお 田代 一男議員

に順次、整備予定です。無線LANや電子黒板機能を有するプロジェクターの整備も進めていく予定です。

**Q** 千葉県警でも運転に不安のある高齢者ドライバーに運転免許証の自主返納を呼び掛けている。運転免許証を自主返納した人の生活の足を確保するための支援策として循環バスの運賃を無料にできないか。

**A** 循環バスで、運賃を無料にする等の割引制度は、現在導入していませんが、運転免許返納者や高齢者への優遇措置として、今後、検討していきます。

**Q** 東日本大震災から今年で6年を迎える。大規模災害時の避難所に高齢者が寝起きしやすい段ボール製の簡易ベッドを備蓄寝具として配備できないか。

**A** 段ボール製簡易ベッドは、軽量で組み立ても簡単、かつ安価との理由から備蓄の必要性を認識しています。段ボール製簡易ベッドをはじめ、その他さまざまなアイデアや工夫された防災関連用品の備蓄につ



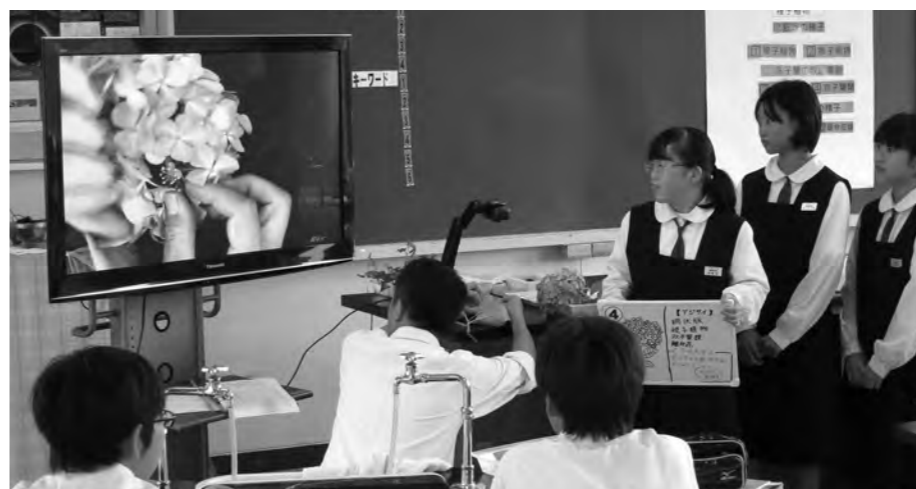
くぼき そういち 久保木 宗一議員

**Q** おみがわこども園の隣接道路は、センターラインがない極めて幅の狭い道路である。小見川方面から来た車が、この道路を左折するときは、反対車線にオーバーランしなくてはならない。こども園建設にあたりこの道路沿いにかなり広い歩道が予定されている。これを機に安全運転のできる道路幅の確保を実現して欲しいが、どのように考えているか。

**A** おみがわこども園に隣接する市道Ⅱ30号線は、県道旭小見川線と県道小見川海上線を結ぶ重要な幹線道路のため、おみがわこども園建設に当たっては将来の道路幅を考慮し、道路用地を見込んでセットバックしています。今後の道路幅には、おみがわこども園前の道路だけでなく、小見川支所前の道路と県道旭小見川線の交差点を含めて一体として整備していく必要があるため、道路全体の整備計画を策定した上で道路幅幅を行っていきます。

**Q** おみがわこども園の隣接道路は大変狭いので、センターラインがなく、停止

いて、事業者等との協定も視野に入れ、導入に向けた調査・研究をしていきます。



電子黒板の活用でより理解を深める授業が可能に(小見川中学校)

線はずっと奥で左右確認ができない危険な道路である。対向車との接触を避けるために、歩道に乗り上げる可能性もある。事故を未然に防止するためにも、一日も早く道路の幅幅をして欲しいが、その見通しはどうか。

**A** 市道Ⅱ30号線の道路幅には、こども園側だけを広げると交差点自体が危険になるため、交差点と一体として考える必要があります。交差点と一体として実施するには、千葉県警や、県道管理者である香取土木事務所(千葉県)とも協議が必要となります。全体的に幅幅するには、用地買収も必要となります。道路全体の幅幅計画を立てた上で、早い段階で実施できるように検討していきます。

**Q** 高速バスの新たな路線拡大、増便、駐車場整備、そして定期券導入を要望しているが、現在、具体的にどのように進んでいるか。

**A** 現在、高速バス会社5社と協議を重ねています。また、増便に見合う新規利用者の需要把握のため、市民等からアンケートをとっています。なお、利便性向上のためには、バスターミナルのような拠点設置が必要なことから、整備候補地も含めて検討しているところです。